

北海道
札幌
一九零九年
四月

北海道
札幌
一九零九年
四月

日本
三
郵

日本

日本

日本



1899
26
0
1899
0

勝
存
處
其
儀

支
那
印
度
印
度
支
那



十

桂昌より年ねぬの御到
之に仰て仰山御の隣を
す他モ多く見ゆる
り名居の御の上
左近戴仕り猪俣、
候の節御不可、宜まへ
候、御以相林氏と云
わる一時、子了計り居た
候、乞はは主の仲、
萬腔の同情と表せられ
角ふしれ薩摩御の尊
申されやうすたれ申
三三郎升休れ御心に快
雀舌えり里を、御の
次第何事セト御神丸
御ゆち婚儀の事、御
寧ねり事ひにゆき御の

電話へりゆき

次第何事もお咎め
嫁也の嫁孫の事
軍ねじまひこわの神の
がれ御中宿の事も一
はしあはる君のわざとを
庵のと使用私文ねや
方より届かし西行也
了からんよもよこゆ上
旦暮之中親切な話
又想舊名あると喜んで
當歸の事も申せられ思
量車式機車に往来す
親密に御詔勅申せ
られやうむた安心仕事
が此ノ新土所へしのび都
政事よりうち三月下旬より此

新宿

うれやまく 大要の仕事は
此ノ報酬一も色あ
政界と叶ふ三月下り此
を薦、却入社を候
ものぞくお被服店を立候
正色の面に至る。即
刻、仕し出でた。今社の件
と混々一歩大みだ
るも何れも身には極
快い。身に堪へず
此ノ業の不満
山妻より是々宣明
乞ひたが如くの工作

印

時事

久松